キャラクター名
四片 リン(ヨヒラ リン)

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル エグザイル	ワークス	FHエージェントC	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	女性
覚醒	渇望	衝動	自傷	初期侵食率	33 %
出自	待ち望まれた子	経験	転校	邂逅	理想の実現

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4		0	3		7
感覚	2		0			2
精神	0	1	0			1
社会	2		0			2

HP	35
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	4		知覚			意志	2		調達	1	
運転：			芸術：			知識：	2		情報：FHはD+1個。	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
骨の剣	白兵	7r+3	6	[SL]+5		4の詳細データ。
開幕のベル<カンパーナ・アプリータ>	白兵	7r+3	6			1＋5＋7。コスト7。
全ては舞台の上<エ・トゥットー・スール・パルコ>	白兵	7r+3	6			1+5+6+7。100↑、[SL]回まで。コスト12。
さあ、喝采の用意を！<ブレバラーデヴィ・アヂ・アブラッジ>	白兵	7r+3	6			1+5+6+7+Dロイス。100↑、1回だけ。コスト12。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品	
解毒剤	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
和泉　黄一	P　友情	N　隔意		
海木田　陸郎	P　友情	N　隔意		
伝承者：白兵	P	N		
ミドリ・ツルハ	P	N		
シオン	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	自動	-	
効果：C値－［SL］								
がらんどうの肉体	3	3	オート	至近	自身	自動	ピュア	
効果：被ダメ－[SL＋2]D。ラウンド1回まで。								
デモンズウェブ	2	2	オート	10□	単体	自動	80↑	
効果：被ダメ－[SL＋1]D。ラウンド1回まで。								
骨の剣	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：シーン中、素手データ変更。								
貪欲なる拳	3	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：白兵攻撃判定＋([SL]＋1)D。								
ジャイアントグロウス	3	5	メジャー	武器	範囲(選択)	対決	100↑	
効果：対象を範囲(選択)に変更。攻撃値＋2D10。シナリオ中[SL]回まで。								
オールレンジ	3	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：判定D＋[SL]個。								
擬態の仮面	★	-	メジャー	-	自身	自動	-	
効果：自分の顔や姿を自在に変化させる。								
鍵いらずの歩み	★	-	メジャー	-	自身	自動	-	
効果：人間では不可能な形状変化を可能に。								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

コードネーム:シルカシェン
→仏語で「サーカスの人」の意。

日本でも指折りのサーカス団、“スート・サーカス”団長夫妻の1人娘。類稀な運動神経やバランス感覚、柔軟性を幼少期から発揮し、サーカスの申し子として賞賛を受ける。当時はサーカス団の経営が右肩下がりで、スター芸人の離籍が続いていたこともあり将来を厚く期待される。本人も楽しんで稽古に励んでいたが、10歳の誕生日を迎えたあたりから、明らかに人体では不可能な動きができるようになった。本人は芸の幅が広がったと無邪気に喜んだが、家族や仲間たちからは次第に不気味がられるようになった。……だって、どんなに素晴らしい曲芸師でも胸にドーナツみたいな穴を開けてナイフを避けたり、体から取り出した骨でジャグリングをしたりするなんて、できない。サーカスはお客に驚きと喜びをプレゼントするものだけど、あまりにも大きく人知を超えた存在はただの恐怖しか与えられない。彼女には、そのさじ加減が理解できなかった。どうして？もっと自在に体を操れれば、もっと稽古に励めば、きっと誰も見たことがないサーカスができるのに！！仲間との亀裂は次第に顕著になり、高校進学を機にサーカス兼実家を離れる。子どもとはいえプロの芸人としてギャラは貰っていたので、現在はそれを資金に高校近くのアパートを借りて生活している。

初めての、一か所に拠点を構えての生活。初めての、転校のない学校生活。慣れない生活の中で、初めて黄一や陸郎のような親友もできた。昔から人見知りをするタイプではなかったが、たった数か月の関係と思うとこれまでは深く付き合えなかったクラスメイトたちと、放課後にファーストフード店に行ったり、昼休みにバスケに興じたりとなんてことのない時間の楽しさを知った。その一方で、サーカス仲間から理解されなかったように、彼らも自分の能力がわかったら離れていってしまうのではないかという不安も抱えている。驚きこそすれど、彼らはきっと自分のことを理解してくれる。そう堅く信じているからこそ、確かめるのが怖い。初めてできた、肉親や身内同然のサーカス団員ではない、“全くの他人”との絆が壊れるのが怖い。自分の体や思考が、異質だとつきつけられるのが怖い。ゆえに、サーカス出身であることは話しているが、オーヴァードであることは言い出せないままでいる。……が、元より隠し事ができるタイプではないので、ちょくちょく不自然な身のこなしは出ているかもしれない。

ちなみに中学生の頃に一度、当時興行していた街のUGN支部にスカウトされたことがある。オーヴァードやレネゲイドに関する知識はそのときに得たもの。自分と同じように能力を持つ彼らが謳う、オーヴァードと人間の共存という理念に期待したが、それも刹那の夢だった。目を輝かせた彼女の「じゃあさ、あたしたちの力で皆をワクワクさせるようなパフォーマンスもできるよな？」という言葉に呆れ驚いて、オーヴァードの存在の秘匿による歪んだ共存関係がさも最善であ